

ヤシャゲンゴロウ

Acilius kishii Nakane
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

国内希少野生動植物種に指定されている。日本はもとより世界でも本種の生息地は南越前町夜叉が池のみである。個体数の詳細な数字は不明だが、1000 個体を切っているとも言われる。

種の特徴

体長 14～16 mm。中型ゲンゴロウの一種。近縁種メスジゲンゴロウと似るが、メス上翅の条溝が不明瞭なことから区別できる。幼虫はミジンコ類を主食とし、成虫は池水面に落下した昆虫等を食べる。

分布

本県南越前町の夜叉が池が唯一の生息地である。

生息を脅かす要因

愛好者による密猟や、土砂の流入による池の水質の変化、炊事や犬連れ登山等入山のルールを守らない登山客の増加などが挙げられる。

参考文献 Bergsten&Miller (2005)、保科・井上 (2005)、保科・井上 (2006)、環境省 (2015)、森・北山 (1993)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○									

マルガタゲンゴロウ

Graphoderus adamsii Clark
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：要注目

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

現在福井県内で確実に繁殖している生息地は数か所にすぎない。

種の特徴

体長 12～15 mm。中型ゲンゴロウの一種。上翅の大部分は黒褐色。主にため池や湿地に生息する。幼虫は捕食性、成虫は動物の死骸等を集まる。

分布

琉球列島を除く国内のほぼ日本全域に分布するが、姿を消した地域も多い。近年の福井県では嶺南で見つかったことがあるものの、確実な生息地は嶺北の一部のみと思われる。

生息を脅かす要因

愛好者による捕獲圧や、生息地の乾燥化、アメリカザリガニなどの侵略的外来種の侵入、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 環境省 (2015)、森・北山 (1993)、上野ら (1985)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○									○			○	○	

シャープゲンゴロウモドキ

Dytiscus sharpi Wehncke
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

国内希少野生動植物種に指定されている。生息が確認される都道府県自体が少ない。福井県産動植物の中で最も絶滅の危険が高い種の一つ。

種の特徴

体長 28～33 mm。大型ゲンゴロウの一種。背面は黒褐色で、黄褐色の側縁を持つ。メスは上翅に通常 10 条の明瞭な縦溝を有する。主に湿地やため池に生息する。幼虫は捕食性、成虫は動物の死骸等を集まる。

分布

本来は本州日本海側および関東～関西にかけて分布していたが、大半の地域で絶滅した。福井県内でも生息地は数か所を残すのみ。

生息を脅かす要因

愛好者による密猟や、ため池の消失、アメリカザリガニやオクチバスなどの侵略的外来種の侵入、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 環境省 (2015)、森・北山 (1993)、西原 (2008)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○						○						○

昆虫類